

**製品名: 切断型カテプシン D HC (L169) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08974**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	27kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CTSD
別名	CTSD; CPSD; Cathepsin D
遺伝子 ID	1509.0
SwissProt ID	P07339
免疫原	抗血清はヒト CATD 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 150-199

**背景**

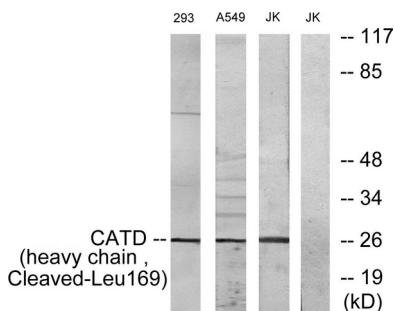
この遺伝子は A1 ファミリーのペプチダーゼをコードしています。コードされているプレプロタンパク質はタンパク質分解によって複数のタンパク質産物を生成します。これらの産物にはカテプシン D の軽鎖と重鎖が含まれ、これらはヘテロ二量体を形成して成熟酵

素を形成します。この酵素はペプシン様活性を示し、タンパク質のターンオーバー、ホルモンおよび成長因子のタンパク質分解活性化に関与しています。この遺伝子の変異は、神経性セロイドリポフスチン症 10 の原因となるだけでなく、乳がんやアルツハイマー病など、他のいくつかの疾患の病因にも関与している可能性があります。 [RefSeq 提供、2015 年 11 月]、触媒活性: ペプシン A と類似しているが、特異性はより狭い。インスリン B 鎖の 4-Gln-|-His-5 結合を切断しない。、疾患: CTSD の欠陥は、神経セロイドリポフスチン症 10 (CLN10) [MIM:610127] の原因である。これは、カテプシン D 欠損による神経セロイドリポフスチン症としても知られる。神経セロイドリポフスチン症は、小児および成人における進行性神経変性疾患の一群であり、視力および知能の低下、運動障害、てんかん、行動変化を特徴とする。機能: 細胞内タンパク質分解に活性な酸性プロテアーゼ。乳がんやアルツハイマー病など、いくつかの疾患の病因に関与している可能性がある。、多型: Val-58 アレルは、認知症患者 (11.8%) において、認知症のない対照群 (4.9%) と比較して有意に過剰発現している。Val-58 アレル保有者は、非保有者と比較してアルツハイマー病 (AD) を発症するリスクが 3.1 倍高い。、類似性: ペプチダーゼ A1 ファミリーに属する。、細胞内局在: ステージ I からステージ IV までのメラノソーム分画において、質量分析法によって同定されている。、サブユニット: 軽鎖と重鎖からなる。、

## 研究分野

リソソーム;

## 画像データ



エトポシド 25μM で 1 時間処理した 293 細胞、A549 細胞、JurKat 細胞のライセートを CATD (重鎖、切断型 Leu169) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンには合成ペプチドでブロッキングした。



切断型カテプシン D HC (L169) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析